

小旗を振りながら、堂々の入場行進する本県選手団。八戸市長根公園野球場



「はやて国体」開幕



氷の精鋭集う
八戸長根球場で開会式

第五十九回冬季国体スケート・アイスホッケー競技会「活彩はやて国体10th」が二十八日、八戸市を主会場に開幕した。「君を待つ 凍(しば)れる大地 輝いて」のスローガンのもと、四十三都道府県から選手・役員約千九百人が参加。八戸市長根公園野球場に皇太子さまをお迎えして開会式を行い、各県の色とりどりのユニホームが快晴の澄み切った空に映え、熱戦の幕開けを彩った。

午前九時、開会式会場の長根球場が開門され、待ちわびた県民が続々とスタンドへ。皇太子さまが会場に到着されると、会場から一斉に拍手がわき上がり、ファンファーレで開会式を告げた。八戸市での冬季国体開催十周年を記念して、第一回大会アイスホッケー中等学校の部の優勝メンバーや過去の八戸大会の選手宣誓者が国旗、大会旗などを掲げて入場。「北のまほろば行進曲」「リンゴの歌」など、なじみのメロディーに合わせて、選手団が北海道を先頭に北から南の順に行進した。最後に本県選手団が入場。スピードスケートの石岡守選手(吉田産業)を旗手に、その日のウエアに身を包んだ郷土の精鋭たちが姿を見せると、スタンドを埋めた観衆から一段と大きな歓声があき上がった。

三村申吾知事が開会宣言、安西孝之大会長、上野正蔵県議会議長、中村寿文八戸市長らのあいさつに続き、皇太子さまが「お互いの友情をはぐくみ、地元のみなさんとの交流を深められることを期待しています」とお言葉述べられた。